

2019年
3月10日

No.244

さざなみ

〒520-2141
大津市大江6丁目23-24
さざなみネット
 (金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)
 TEL・FAX 077-545-5154

近畿地協2019春闘学習会

仕事も組合も生きていくことにも疑問を持って学習を

3月9日から10日にかけて、京都・石長松菊園で近畿地協2019春闘学習会が開催されました。関東、東海、北陸、中国四国、九州沖縄各地協からの参加者を含め30人が、さざなみネットから山崎書記長が参加しました。

主催者を代表して岡野議長は、「いま、仕事も組合も、生きていくことにも、疑問を持って学習することが大事だとつくづく思う。就活では金融機関は少なく、肩書のある方でも辞める方が多い。職場では、ものも言えない抵抗もしない受け身だけ、これでは奴隷と同じだ。一人では言えなくても、経営にもの言えるのは組合



学習の重要性を訴える岡野議長

である。働き方改革が4月から施行されるが、働き方改革では駄目である。『多様な柔軟な働き方』と言われ、よさように見えるが、よく考えると非常に危険である。しっかり勉強していきたい。この学習会を学習し考えるきっかけにしていきたい」とあいさつしました。



参加者の間で講演をする吉田豊氏

〇〇したい！から始まる組合活動

次に、愛知県学習協会長の吉田豊氏から「〇〇したい！から始まる組合活動」と題した講演を受けました。

吉田氏は、「いまの若者は、生活実感が『苦しい』、生活で5万円不足するとしながら、春闘では1万円程度しか要求しない。足りない分はどうするのかというと、我慢するか副業するかで、春闘でなんとかしようとならない。その原因は『せめてこのままでありたい』という薄っぺらな現状維持型の『常温社会』であるからだ。『〇〇をしたい』をつくるためには、『明日のための今日』の活動が大切であり、そこに労働組合の存在意義がある。自世代が育つためには、『希望一調整一計画一準備一実行一片付一総括』までの『ひとまとまりの経験』が大事で、『成功体験』によって『あきらめ・やってもムダ』の風潮を変えることが必要である」など、迫力をもって話されました。

また「働き方改革」について、労働法制を破壊する「毒」も盛り込まれたが、省令・指針に私たちの要求の一部が盛り込まれた。使えるものは有効に使って、組合だから言える生の声を集めて、これからの36協定に向けて、働きやすい職場をつくってほしいと、時間外労働の上限規制や時間外手当の割増率、年次有給休暇の5日取得義務化など、ていねいに解説いただきました。



すみれ 岩波 美智子さん 画

原発のない社会へ2019びわこ集会 地球の生きとし生けるもののために 原発をなくそう

東日本大震災と福島第一原発事故から8年目の3月11日を目前にした9日、「原発のない社会へ2019びわこ集会」が天津市の膳所城跡公園などで開かれ1000人が、金融労連の仲間7人（内さざなみネット3人）が参加しました。

集会は10時に始まり、天津市生涯学習センターでは、福井地裁で大飯原発の運転差し止め判決を下した元裁判官の樋口英明さんが「原発訴訟と裁判官の責任」と題して講演しました。膳所公園では、舞台上「ライブ&リレートーク」が、またこだわりマーケットが始まり、参加者は手作り作品の販売や買い物、食事そして音楽を楽しみました。

13時30分からの集会では、基調報告は井戸謙一弁護士が、再稼働や裁判など、この1年間の原発をめぐる情勢を報告。原発に固執し、



被害者への損害賠償を打ち切り、被ばくによる健康被害を認めない政府を批判しました。また、国政選挙で

原発問題を争点化することや原発ゼロ法案の審議をすすめさせること、訴訟の重要性などに言及。「原発をなくすことができます…。この地球の生きとし生けるもののために、今後も力を尽くしましょう」と呼びかけました。午前中に、天津市生涯学習センターで講演をした樋口裁判官があいさつ。「原発の問題は、国民の命が大事か電力会社の短期的な儲けが大事かという単純な問題」「原発は愛するふるさとや琵琶湖やわが国を滅ぼしかねない。地震のたびに「大丈夫か」と思って過ごすような日々は我々の世代で終わらせましょう」と呼びかけ、大きな拍手に包まれました。

集会後、参加者らは、関西電力滋賀支社前を

通って大津テラス前までデモ行進しました。

感想

東電福島原発事故から8年経過しましたが事故は収束せず廃炉の見通しも立ってなく、

今も大気中に放射性物質が放出され続けていて、高濃度の汚染水が海に垂れ流しにされています。まだ多くの人々が避難され帰るに帰れない状態が続き経済的・身体的に追い詰められています。

滋賀県も高浜・大飯原発から30km圏内があり、事故が起こればびわ湖をはじめあらゆるものが汚染され大変なことになると思います。このような集会をせずに済む未来をつくるため、事故を忘れることなく、原発のない社会にするよう、あらゆる運動を続けていかなければと、大津テラス前までデモ行進をしました。（浦谷）



「原発NO！老朽・高浜原発動かすな」のシートを掲げコールする参加者（中央左に「金融労連」の旗）

ひとこと

数年前から見たかった節分草。寒い冬が終わりを告げそうな早春の山麓に姿を現す春の妖精、節分草。冬の間すっかり葉を落とし、た明るい広葉樹林に花を咲かせます。

機会があり、米原市大久保へ。お天気も良く、暖冬で、すでに満開。

山に登らなくても、ひたむきに可憐な花を咲かせている群生に出会えて感激。

私もひたむきに生きなければ！と思ったツアーでした。（岩波）

